

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>

川柳ステーション  
2024

2024

8

川柳ステーション 2024	20
無人駅鑑賞 「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集 「無人駅」	7
■例月句会結果■	
川柳吟行会 「ぼ」	43
十和田たてがみ川柳会 6月句会報	47
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	19
Infomation	50～

# カンテラ

むねこ

去る7月6日、およそ60人の方々にご出席をいただき、無事「川柳ステーション」を開催することができました。

ゲストの暮田真名様をはじめ、半数が県外からの参加者で、新しい風が吹く心地よい大会となりました。皆々様のご協力で深く感謝申し上げます。

そして次の日、「川柳ステーション」とまるでセツトのように「らくだキャラバン句会」が青森市で開催され、おなじょうきのメンバーも参加させていただきました。更に川柳を楽しむことができました。

川柳らくだの皆様、ありがとうございました。

それでは、カンテラに明かりを点しましょう。

A群

丸々となるヤモリに名前つけてやる 城後朱美

少納言の愛でたスバルが見当たらず

葉 閑女

梅雨明けて二重人格立ち上がる

柳本恵子

柳本恵子さん、この句の作中主体って作者本人ですか？私なんか「二重」どころか「四重」「五重」人格ですから、この句を読んでなんとなくホッとしました。別人格って「梅雨」の間は身を潜めているんですね。

B群

金運上がるってせれモン丸かじり 四ツ屋いずみ

うすぎりのこかぶみたいな老後なら 守田啓子

分け合ったことを忘れたことを忘れた 須藤しんのすけ

光らねば蹴られる石になっちまう 齋藤泰子

美味しいって言うてくれたから つづく 熊谷冬鼓

片割れのきんぎょに重い夜の水 きんぎょ彼句吾

スリッパがちよつと拒否って自己主張 一 帆

舌の根が乾かぬうちに「人」を呑む 三浦倉鬼

許したら鍋がわたしを許さない 米山明日歌

これ以上ほかしきれない消えちまう まみどり

まみどりさん、あの「ほかす」って、『ほかす【暁す】①色の濃淡のさかい目をはっきりさせないで、だんだんに淡くする。②表現をあいまいにして、内容を

どの蓋もあわない僕のフライパン  
 坂本清乃  
 紅い血の歌が聴こえる糸電話  
 嵯峨山登  
 目が合った時から発酵し始める  
 瀧尻善英  
 「ありがとう」を着る ジワジワ温かい  
 芝岡かんえもん  
 とときめきをジップロックに閉じ込める  
 峯島 妙  
 一日をどっこいしょって背負ってます  
 田中 薫  
 鼻歌について来そうな丸い月  
 辻井洋子  
 反逆だ頭の上の土どかす  
 夏草ふぶき  
 今日はずなすすべもなく水でいる  
 ひとり静  
 私からはみ出た部分箇条書きに  
 まきこ  
 道草は雨雲ひとつ連れてゆく  
 吉見恵子  
 不発弾のまんまで老いてゆく  
 村井規子  
 母さんは鬼を3匹隠してる  
 村上あつこ  
 日が落ちて私は丸い月になる  
 村上てる  
 ただいま〜世界をぱーんと開ける声  
 吉田吹喜  
 ブタ菜満開奥床しさを教えなきや  
 吉田州花  
 会議室揺れるびっしり獣臭  
 宮井いずみ

ばんやりとさせる。』(広辞苑第七版)ですよね。①の例に「輪郭を―す」とありました。この句の「ほかす」は①のような気がするんですが、違うでしょうか。まみどりさんが消えればきつと警察沙汰になります。あまりほかさないようにお願いします。

C群

割箸で掻き混ぜるりんご追分 岩根彰子

九字を切るドブの匂いを残す指 戎 踊兵

銭湯の富士に暗殺者が立っていた 小野五郎

大きくなったらゴジラの父になってくれ 笹田隆志

ちいさんは(鰻重的)にエモい 奈良一艘

岩根彰子さん、「りんご追分」って、古い歌謡曲をよくご存じですね。「リングの花びらが 風に散ったよな 月夜に月夜に そっと えー」で始まる美空ひばりの楽曲で、「つがる娘はないときさ つらい別れに ないたときさ リンゴの花びらが 風に散ったよな あー」と続きます。この曲は1952年5月発売で、その時私はまだ3歳でした。ではありますが、ひばりさんがその後も歌い続けていたのでそれとなく知っています。この曲の舞台となった青森県弘前



市のりんご公園には歌碑があって、毎年5月に「全日本リング追分コンクール」が開催されています。で、彰子さんはその「りんご追分」を「割り箸で掻き混ぜる」んですね。そんなことをしたら曲に登場する「りんごの花びら」や「つがる娘」や「岩木山」「桃の花」もつと言えば「さくら」も「お母ちゃん」も混じって何が何だか分からなくなっちゃうんじゃない？（笑）あれあれ、わざと5音5音7音にしたのかな？

戒踊兵さん、「ドブの匂いを残す指」ってばつちいですね。誰の指？「九字を切る」って「九字のまじないをする」（広辞苑）ことで、「九字」は「護身の秘呪」として用いる9個の文字。「臨兵闘者皆陣列在前」の九字の呪を唱え、指で空中に縦に4線、横に5線を書けば、どんな強敵も恐れるに足りないという護身の法（広辞苑）でしょ？まさか、踊兵さんがやってるわけじゃないよね？

小野五郎さん、恐ろしい「銭湯」ですね。その「銭湯」って青森市内にあるのですか？「暗殺」って、「ひそかにねらって人を殺すこと。多く、政治的に対立している要人を殺すこと」と広辞苑にあって、例に「大統領を―する」とあります。その「銭湯」の「暗殺者」に、すぐロシアへ行って欲しいのですが…。

笹田隆志さん、「大きくなったら」って「わらべ」の「めだかの兄妹」に出てくるフレーズじゃないですか。あれは「めだかの兄妹が川の中／大きくなったらなんになる／大きくなったらコイになる／大きくなったらくじらに／スイスイスイスイ…」だけど、隆志さんの句は「ゴジラ」。それも「ゴジラの父になってくれ」ところで、「ゴジラの父」って「ゴジラザウルス」ですか？  
 奈良一艘さん、（ ）なんか使っちゃってどうしたの？「鰻重的」ってホントは自分に似合わないから（ ）を使って遠慮がちにしたのかな。それから、「エモい」って普通の爺さんが使う言葉じゃないでしょ。ネット検索したら富士フィルムのページがヒットして「『エモい』という言葉の由来は諸説ありますが、「感情的な」という意味の英語「emotional」（エモーショナル）からきているという説もあり、現在、若者の間では「感情的」「哀愁漂う」「趣がある」「グツとくる」などの意味で広く使われています」とありました。簡単に言うと「形容しがたいさまざまな心情を表現する」言葉だって。ということは、この句は「お爺さんは鰻重のようにおいしくて高級で複雑な味がします」ってことかな？どうして「じいさん」じゃなく「ぢいさん」なのかな？

おかしやうき川柳社会員雑詠集

# 無人駅

★無人駅7月月間賞

陽が落ちる私の影がたちあがる

村上てる



### ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

まだ希望あるとバス停立っている  
居直ってみようか全部手放して  
今日はもうなすすべもなく水でいる  
四捨五入断捨離好きじゃない言葉  
まだ何も決めてないのにバスが来る

先月号のお気に入り  
アキストゼネコ何度やってもトで終わる 峯島妙  
懐かしいこと思い出してしまった。ゼで終わるよりいい。

### ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

天気良好腋芽があるし大丈夫  
九回の表ペーパーミントで歯を磨く  
今年の防虫剤が見得を切る  
春近し桜の枝は企画中  
コーヒーがおいしく思う発芽かな

先月号のお気に入り

### まぎやう【まぎこ・青森県青森市】

さすらいの曲に合わせてひた歩く  
私からはみ出た部分箇条書きに  
宛先は宇宙と書いて逃走中  
欄外に君の欠点並べたわ  
心地よいページにお邪魔しています

先月号のお気に入り  
ひょっとして悪女だったかよく眠る 辻井洋子  
一度でいいから悪女になってみたいわ。楽しそう・・・

### まみどり【まみどり・青森県黒石市】

風船のどこが悪いのまだ飛べぬ  
ひと晩で塗りがえられていく風評  
これ以上ばかききれない消えちまう  
幸いに救ってくれる腕ばかり  
CoCo 壺番やはり神さま仏さま

先月号のお気に入り  
どう見ても目出度い顔になる鏡 戎 踊兵  
えっ、そうなんですか？とても理想的な鏡ですね。

### 三浦蒼鬼【みうらそうぎ・青森県黒石市】

一流のポンコツになるまでの旅  
一秒を追いかけ続く鉤括弧  
煩惱を掻き出すネコの後ろ足  
俺なりの正義を貫いた麩菓子  
舌の根が乾かぬうちに「人」を呑む

先月号のお気に入り  
半身はいつも火種をまつている 米山明日歌  
刺激は正しく生きる秘訣ですね

### 峯島 妙【みねしまたえ・大阪府大阪市】

ビニールの骨も心も折れ驟雨  
「あ」が漏れるきつとあの時あの匂い  
ときめきをジップロックに閉じ込める  
甘い罨パイナップルのじゅくじゅく  
オレンジの空にバババとバーコード

先月号のお気に入り  
友達を解消 兄弟も解散 旅男  
そして一時の激情に一生後悔するんでしょうね。

### 宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

初めての駅はいつでも晴れている  
策略がなんだツバメは迷わない  
まばたきを三回雨をやり過ごす  
会議室揺れるびつしり獣偏  
またねとも言わずイエローサブマリン

先月号のお気に入り  
片栗のフツと広がる独り言 吉見恵子  
片栗粉を使うと必ずエプロンを汚します。あれは独り言  
だったんだ。

### 村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

歩きたい道の手前に坂がある  
不発弾のまんまで老いてゆく  
前世でも罪名きつと親不孝  
第三次青春這ってでも会いたい  
憧れ人の汗でソルティードッグ

先月号のお気に入り  
月はあの時の逢瀬の位置なのに きざらぎ彼句書  
同性のひとりとしてそんな時が一度もなかったので 素  
直に羨ましいです。

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

敷かれたレールを走ったはずなのに  
カツサンドか卵サンドで揉めている  
古希過ぎたし明日は明日ケセラセラ  
皺くちやの婆になっても女です  
母さんは鬼を3匹隠してる

先月号のお気に入り  
お茶の間の真ん中にある深い穴  
まきこ  
怖いですね

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

桜咲く木の下に椅子二つ  
散歩道川の岸边に吾亦紅  
落ちこんで母の手紙を読みかえす  
日が落ちて私は丸い月になる  
水平線のかなたに希望を馳せている

先月号のお気に入り  
兄一人頼りにしてた甘えてた  
城後朱美  
私も姉一人の姉妹で亡くなって知る如何に頼りにして甘えていたものがと。

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

ハイ・ポーズ 海は広いな大きいな  
タイブレークになっても笑わないダリア  
少納言の愛でたスバルが見当たらず  
ノーヒットノーランよりもマダックス  
お気楽に「真摯に」などと宣ふな

先月号のお気に入り  
日本が独立国という偽証  
村井規子  
全くねえ。いらぬ兵器を買わされて、郵便料金は値上げだわ。

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

曼荼羅華まだしあわせでいいかしら  
雑草にあらす私が育てましょ  
鼻の穴大きくなつた風邪かしら  
みな鬼籍おだててくれた男達  
ブタ菜満開奥床しさを教えなげや

先月号のお気に入り  
無用の用を重ねかさねて花吹雪  
吉見恵子  
それが生きていくということなのです

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

新玉ねぎガブリため息プカリ  
黒皮のスイカなんとか生きてます  
うすぎりのこかぶみみたいな老後なら  
腰椎も論点もずれ梅雨に入る  
おじちゃんの手には台湾パイナップル

先月号のお気に入り  
アキストゼネコ何度やつてもトで終わる  
峯島妙  
なつかしいー

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

涼やかに一夜の逢瀬天の川  
梅雨明けて二重人格立ち上がる  
ヤクルトのお姉さんに渡される真夏  
嘘一つ病理検査にまわされて  
ルンバ右左 金魚少し動く

先月号のお気に入り  
眠れぬ夜は猫バスに乗ってみる  
村上あつこ  
私もバス停で待ってみます、猫バス区

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

ただいま世界をぱーんと開ける声  
歌声が真つ青な空覆つてく  
合唱団新鮮な色繰り出して  
嘘と魔法 なりたい自分に なる  
自分らしくころころとつぎからつぎへ

先月号のお気に入り  
面倒になったら私ごと送る  
まみどり  
送られたほうは それはそれは助かります。

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

食卓に今日のパンあり朝のニュース  
灰色の風が吹くたび旗はためく  
鬼にも蛇にもなつて緑濃き六月  
道草は雨雲ひとつ連れてゆく  
旧アイドルのコンサート 熟成ワイン

先月号のお気に入り

## 四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

いい加減慣れろとぼそりエルニーニョ  
勝てません極楽鳥とにらめっこ  
金運上がるってさレモン丸かじり  
右の口角だけ上げて夏至祭  
6月のオンブラ・マイ・フ昼寝しよ

先月号のお気に入り  
アキストゼネコ何度やってもトで終わる 峯島妙  
アキストゼネコ 懐かしい！今なら脳トレにいいかも。

## 米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

半音下げたままで病んでいくページ  
口実を儲けて夜を越えてゆく  
寝るだけの部屋に飾ってある写真  
許したら鍋がわたしを許さない  
七月の確かなものを探す指

先月号のお気に入り  
オッパイをぴーんとはっている正義 芝岡かんえもん  
あれ？ わたしのこと見ていたのですか。

## 岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

こんによくになりますどこまで行けるか  
夏用のスリッパ夏用スクロール  
大きな葛籠と分かち難い路肩  
潮吹きの追伸効きすぎるエコー  
割箸で掻き混ぜるりんご追分

先月号のお気に入り  
ノルウエー産サーモンとさみだれる 守田啓子  
「さみだれる」、ノルウエー産、サーモンのサ行がザ・川  
柳だと感じました。

## 戎踊兵【えびすようへい・青森県外ヶ浜町】

血の池のほとりに咲かすカスミ草  
赤松が嘘を付けずに折れている  
蜜を吸う蝶の眼玉に睨まれる  
九字を切るドブの匂いを残す指  
多産系のアイドルだったハルジオン

先月号のお気に入り  
見せしめのように名前が書いてある ひとり静  
あの時は好きで光った訳じゃない

## 安藤なみ【あんどうなみ・愛知県瀬戸市】

しあわせの幻想蓮池のカエル  
逢引きかデートかどちらでもいいか  
ふりがなのブラウス二枚買ってくる  
まばたきをしつつまたたき明ける空  
戦場に舞う脱炭素のチラシ

先月号のお気に入り  
カルメンがギターで椎茸干している 小野五郎  
薔薇を啜えたカルメンが真つ赤なスカート姿でギター  
の弦に丁寧に椎茸を干している。おもしろーい！

## 一帆【いちほ・秋田県秋田市】

嫁が来るまた一本の平行線  
娘も嫁も今真つ盛りな薔薇らしい  
子の背中大きくなって風の中  
スリッパがちよつと拒否って自己主張  
嫌だなあ空気を読んで胸張って

先月号のお気に入り  
ちようどよい窪みだ想い出と独り 斎藤泰子  
時々、そんな窪みを慈しむ。

## 小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

海開き日和見山が起き上がる  
撫で肩の鉄塔がある肖像画  
銭湯の富士に暗殺者が立っていた  
エレベーターが蹲ってる夕間暮れ  
まだ海を見たことがないジググラト

先月号のお気に入り

## 金瀬達雄【かなせたつお・富山県高岡市】

笹舟がぼた餅を漕ぐ遠い夏  
日中の平和パンダとデレレコデン  
ゴルゴタで蛇神になって飛んでやる  
夏空のダンス金魚の放し飼い  
台湾の里山に降る天使団

先月号のお気に入り  
優先者名簿漏洩「地球号」 嵯峨山登  
そういう流れに見えます。



きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

じふんを膨らます春の嘘ついて  
夏の嘘で掻き立てなくちや萎れちやう  
秋の嘘ついたなぐさめてほしくて  
諦めようと自分についた冬の嘘  
片割れのきんぎよに重い夜の水

先月号のお気に入り

齷齪と書いた端から汗をかく 四ツ屋いずみ  
せめて、アクセク、あくせくと書けば、平熱でいられる  
のかも

熊谷冬鼓【くまがいとうこ・青森県青森市】

柿に花水は6個紫蘇ジュース  
美味しいって言ってくれたからつづく  
そろそろとぼちぼち九官鳥もどき  
しようがないばかりでどうにもならぬ傘  
目覚めれば少しは彩もつくでしょう

先月号のお気に入り

ジキソウシヨウジキソウシヨウと牙を磨ぐ 嵯峨山登  
カタカナ表記が効果的。考慮の時間でもある。

嵯峨山登【さがやまと・佐賀県大和町】

まっしろな骸骨でした中の人  
生きている遺跡の中を蟻の脚  
紅い血の歌が聴こえる糸電話  
暗闇の半球移る鶏が鳴く  
純人間と準人間のあいだ

先月号のお気に入り

好きだった男に生えるねじり花 田久保亜蘭  
死んでいると読みましたが、生きているかもしれせん。

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

ともだちがほしいされどいまはいい  
ミサイル発射燃料棒を取り換える  
カバが好き糸コンニャクはもつと好き  
とてつもなく重い荷物を背負っちゃった  
大きくなつたらゴジラの父になつてくれ

先月号のお気に入り

春掘りの牛蒡みたいな夫婦です 守田啓子  
まさか私たちが夫婦の事じゃないですね。

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

風ぐるまカラカラ想い出は赤い  
順応性無いから泣いてばかりいる  
理解したいあなたの遠い瞳の訳を  
男から貰う助言に棘がある  
光らねば蹴られる石になつちまう

先月号のお気に入り

幸せのしつぺ返しがつくと来る むさし  
そうだ、きつと来る。今に来る。・・・だけどごんなしつ  
ぺ返しが見てみたい気もする。

坂本清乃【さかもときよの・青森県蓬田村】

どの蓋もあわない僕のフライパン  
素手素足雑草なんかには負けない  
朝が来た何がどうあれ深呼吸  
ハンガーに吊した訃報また続く  
隠元豆絡んだつるのその先に

先月号のお気に入り

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

毎日が片っ端から揺れている  
言葉をうるおす 新宿オカマBAR  
もうファイティングポーズがとれません ワタシ  
黄昏を引き摺り続けてる背広  
「ありがとう」を着る ジワジワ温かい

先月号のお気に入り

濁点の付いた中指だけ立てる 奈良一艘  
反抗的な姿勢が頼もしい。

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

丸々となるヤモリに名前つけてやる  
二度見したヘビはちんまり生きていた  
小ネズミの真ん丸い目と合ってから  
ゴキブリも蜘蛛も許せる範囲です  
友達がいなくても大丈夫

先月号のお気に入り

今日も明日もさみしいのですひとりって 須藤しのすけ  
耳の遠くなった母と平和に過ごす毎日。なのに、なんと  
なく、さみしい。

## Sin

## 瀧尻善英

「正」の字あなたの書き順違う  
 荒れ狂う木陰のような寿司にしない？  
 どうか洗濯機に殺意がありませんように  
 夕空がゆつくり爆ぜる音 おつ  
 「書き順が違ってた」などと供述しており

目が合った時から発酵し始める  
 善人が亀の背に乗りユートピア  
 赤薔薇の陰で咲くのは野心だろ  
 スキップへ弾む心にいのち跳ね  
 青空が直ぐそこにある深呼吸

先月号の  
お気に入り

ジャイアンを降りて真夏のオリオン座 宮井いずみ  
 ジャイアンって乗れるんだね。

先月号の  
お気に入り

モナリザと赤い鼻緒とガニマタと むさし  
 モナリザの足元にあるジョジョがガニ股だったとは…。  
 凄い発想。

## 須藤しんのすけ

## 田中 薫

唐揚げに無言でレモンかける犯罪  
 初めての二人の朝は照れちやうね  
 通えないのはたたみ忘れた翼のせいだ  
 分け合ったことを忘れたことを忘れた  
 方向も強さも僕に似合わない

一日をどっこいしょって背負ってます  
 受け止めた矢からちよろちよろレモン汁  
 佐び寂びが発酵しすぎなのよあなた  
 今だけの鳥たちで耳を塞ぐ平和  
 穴が塞がらない平和記念会館

先月号の  
お気に入り

ポケットはぼんやり月を見ています ひとり静  
 ぼんやりなポケットは…月が綺麗ですね。ふふっとなる。

先月号の  
お気に入り

「生き切った」そう書いてある遺言書 夏草ふぶき  
 ふぶきさんらしい心に残る句です。

## 旅男

## 夏草ふぶき

オオアレチノギク命がけで好きなんか  
 銭が痛い暇が痛いマメコバチ  
 あんた行ってくるわよユウゲシヨウ  
 左手のこと考えて！ヘクソカズラ  
 オッタチカタバミ若さつて道の草

アイロンをかけられ深々とお辞儀  
 反逆だ頭の上の土どかす  
 病歴が刻まれている手を洗う  
 天日干しし過ぎて夜が眩しくて  
 試練多々乗り越え過ぎて神に成る

先月号の  
お気に入り

姑さんの萩枯れました 献杯 滋野さち  
 傑作です、一語の無駄がない。晴々、さっぱりしました。

先月号の  
お気に入り

ともだち登録しておく枯木灘 小野五郎  
 これって勇気がいりますね。

## 辻井洋子

## 奈良一艘

暑いねえと供えるそうめんかき氷  
 こんやくになつて下さい熱帯夜  
 雨の日はシッポが垂れるエビフライ  
 舟を漕ぐ貫き通すこともなく  
 鼻歌について来そうな丸い月

アンジュセヨ・ジュセヨ・ヨブセヨ・モルゲツソヨ  
 胸張り裂けるほど、裂けても良いほど 白夜  
 ぢいさんは(鰻重的)にエモい  
 アトラダムな肋骨にスワヒリ語のサイン  
 どん兵衛がホンモノ讃岐うどんはマガイモノ

先月号の  
お気に入り

つじつまを合わせてくれるマヨネーズ ひとり静  
 困った時のマヨネーズ、ですね、わかる。

先月号の  
お気に入り

汚れちまった俺のランプを拭いている 芝岡かんえもん  
 どしたん？ランプなんか拭いて綺麗にしちゃうと、ス  
 (素)ランプになっちゃうぞニ アッハッハ。

鳴海賢治「なるみけんじ・青森県つがる市」

正午の時報 浮足だつています  
高気圧低気圧へと低気圧  
またひとつ咳をする嫁に來ないか  
出来る範囲でだつた暮れ六つ時に  
右向けー右、なぜ戦争するのか

の号の  
先月お気に入り

魔女になるまですカートを長くする 吉田州花  
この短絡感が良かったです。

むさし【むさし・青森県蓬田村】

ジイサンの多重人格ものがたり  
Of course あなたはわたしわたしはあなた  
老眼鏡外せば風のフルコース  
人食い鮫になりたい夜の風の色  
ここからは地獄巡りのコースです

奈良一艘がとことん深読む

# 深艘心理

たとえればオムレツ用のフライパン 峯島 妙

(会員雑詠集 無人駅5月号より)

昔、家業はかなり大きな食堂を営んでいた。従業員は15  
〜16人も居ただろうか？ 宴会場もあり、木造三階建ての  
大きな店だった。ラーメン用のスープと麵茹で用の鍋は直  
径1メートル程もある銅鍋で専門の職人さんが作るのを飽  
きもせず眺めていたのを今でもハッキリと覚えている。フ  
ライパンも用途に合わせて特大、大、小、特小や、中華鍋  
がそれぞれ5〜6個あったように思う。今でこそくっ付き  
にくいテフロン加工を施されたものが家庭用を中心に  
出回っているが、その頃の業務用フライパンは全てが鉄製の  
ので、そのフライパンをくっ付きにくくする為には表面に  
油の膜を施さなければならず、その作業を「ヤキを入れ  
る」と言うのだ。詳しいやり方は省くが、オムレツやオム  
ライス用にはもっぱら小のフライパンを使っていた。それ  
ぞれの用途に応じてフライパンの大きさを変えなければな  
らないのだが、ことフライパンに関してだけは「大は小を  
兼ねる」とはいかないのだ。

第23・25回杉野十佐一賞の大賞受賞者、  
そして当柳社の会員でもある吉松澄子さん  
が逝去されました。  
ここからご冥福をお祈りいたします。

おかしょうき川柳社



で、掲句だが、「何に例えれば」なのかは全く述べては  
いない。ここからは妄想心理的にフライパンは連れ合いの  
事だとしてみる。  
「あの人つたら、もう人間の器が小さいとゆーか意気地が  
ないとゆーか、まるでオムレツ用の小っちゃいフライパン  
みたいで、私もうウンザリしちゃったわ」などという批判  
では無い。その真逆なのではなからうか？ つまり、オム  
レツ（私）が形よく、よりオムレツらしい輝きと艶、そし  
て何よりオムレツとして誇りを持って最高に美味しい存在  
でいることが出来たのは、このオムレツとぴったり合った  
フライパン（旦那）の存在だったんだわ。「ま、たまには  
ヤキも入れてやったけどね。」  
その事にやつと気付いたのがフライパンが死んじゃった  
後でなんて皮肉なもんよね。ふっ。  
ということではないのだろうか。知らんけど…。



# 川柳ステーション 2024

2024年7月6日(土) 14:00～

リンクモア平安閣市民ホール1階「スケルツォ」

## ▼出席者 (58名：順不同)

【青森県】 Sin・きさらぎ彼句吾・さいとうみき・ひらく・夏草ふぶき・吉田州花・かなえ・笹田隆志・三浦蒼鬼・滋野さち・守田啓子・戒踊兵・うつわ・小野五郎・野沢省悟・葉閑女・むさし【愛知県】 青砥和子・安藤なみ【岩手県】 西城一始・川島】 芝岡かんえもん【静岡県】 米山明日歌【大阪府】 くんじろう・酒井かがり・島県】 伊藤良彦【北海道】 宇佐美慎一・河野潤々・浪越靖政・四ツ屋いずみ【東京都】

宮古中子・熊谷冬鼓・栗橋邦雄・月波与生・原口健二・高木まあこ・坂本清乃・笹田須藤しんのすけ・辻井洋子・田中薫・渡邊こあき・奈良一艘・白川莫・福士かれん・田中苑子【京都府】 森田律子【秋田県】 一帆・斎藤泰子・妹尾凜・田久保亜蘭【神奈兵頭全郎・峯島妙・宮井いずみ・森茂俊【奈良県】 山崎夫美子【兵庫県】 矢沢和女【福藤田めぐみ・小沢史・暮田真名

## ▼ご芳志御礼 (敬称略)

弘前川柳社・川柳らくだ・黒石川柳社・金木川柳の会・高瀬霜石・きさらぎ彼句吾



# 宿題『外』

大阪府大阪市 くんじろう選

## 【佳作】

手術後に「二丁あがり」と言う外科医  
 号外はメロンシロップ依存症  
 首すじに遡上してくる蟬時雨  
 よそ様は真つ白い歯にだまされる  
 遠心力外れ絡まり合う、ただ  
 オーガンジーまとう外股の流儀  
 ラ・フランズ津軽衆から外される  
 口の中打ち上げ花火の息遣い  
 想定外ではお休みなさい  
 霧を抱く以外位牌を抱く以外  
 空色の小宇宙まで歩みます  
 UFOに貼ってもらった絆創膏  
 スカートの寝押しと放課後の集い  
 外郎とタイムスリップし損なう  
 籠盛りの外人部隊抱き寄せる  
 外国に行かなきゃ首が座つちやう

安藤 なみ  
 福士 かれん  
 宮古 中子  
 峯島 妙  
 四ツ屋いずみ  
 酒井 かがり  
 宇佐美 慎一  
 宮古 中子  
 原口 健二  
 守田 啓子  
 田中 薫  
 芝岡 かんえもん  
 葉 閑 女  
 宇佐美 慎一  
 安藤 なみ  
 暮田 真名

今日明日面会謝絶時効成立

花瓶からはみ出す二本誰といる

雨粒の外まじわりあうまなざし

いよいよと入れ歯を外す金盥

光背外すから女房にしてよ

外側も中身もぐちゃぐちゃですゴメン

けやぶるまでのドアの静けさ

地球外生命のお尻拭いてやる

死にたいと思ふ生きたいと思ふ 白夜

コップから出るとワルになる金魚

風の音でした貴方の声に似た

ぴったりの靴と出逢って梓の外

言葉って何だろ外に出てみないか

ステイブ君外にいなさい億光年

## 【秀逸】

マイクを外せ團十郎の鼻が邪魔

真つ裸の空を半坪買っておく

日本記念日協会の外のみたらし

## 【特選】

外へ出るあなたが世界なのだから

【軸】狼よ洗濯物は干せたのか

藤田めぐみ

須藤しんのすけ

辻井洋子

高木まあこ

一 帆

きさらぎ彼句吾

奈良一艘

酒井かがり

小野五郎

奈良一艘

森田律子

夏草ふぶき

田中苑子

笹田かなえ

う つ わ

笹田隆志

田久保亜蘭

河野潤々

# 宿題『外』

青森県弘前市 きさらぎ彼句吾選

## 【佳作】

首すじに遡上してくる蟬時雨  
 ペン先を怒りに替える外は雨  
 コップから出るとワルになる金魚  
 けやぶるまでのドアの静けさ  
 内側は母さんでお腹一杯  
 自分史から外した5ミリほどの傷  
 スカートの寝押しと放課後の集い  
 柵を飛び出せタンポポの綿毛  
 神様が外した指輪リサイクル  
 圏外だ大人のおもちや始めよう  
 外れくじで良かった薄と揺れながら  
 女から誘う男の外海へ  
 UFOに貼ってもらった絆創膏  
 室外機の地代受け取る卑弥呼さま  
 号外はメロンシロップ依存症

宮古 中子  
 矢沢 和女  
 森田 律子  
 酒井 かがり  
 一 帆  
 葉 閑 女  
 葉 閑 女  
 熊谷 冬鼓  
 西城 一 始  
 浪越 靖政  
 熊谷 冬鼓  
 田中 苑子  
 芝岡 かんえもん  
 青砥 和子  
 福士 かれん

幸せを部外者として覗きみる

出ていった月が残した涙跡

外股で汚染土踏みいらつしやい

雨粒の外まじわりあうまなざし

アウトサイダーと呼ばれ銀の牙と呼ばれ

外反母趾に過払い金がある

遠心力外れ絡まり合う、ただ

地球外生命のお尻拭いてやる

綿菓子の中でジャンプを繰り返す

J u l y に集結 地球外生物

真つ裸の空を半坪買っておく

外れクジ言い訳にしてまだ死ねぬ

かぎかつこ外せば水になる二人

死にたいと思ふ生きたいと思ふ 白夜

老後つてサービス残業なんだなあ

## 【秀逸】

真つ当に羽目を外して鞘の中

外国に行かなきゃ首が座つちやう

「かみさま」と書かれてあった外れくじ

## 【特選】

外へ出るあなたが世界なのだから

藤田めぐみ

斎藤 泰子

夏草ふぶき

青砥 和子

高木まあこ

矢沢 和女

S i n

四ツ屋いずみ

小野五郎

森田 律子

四ツ屋いずみ

田久保亜蘭

滋野さち

米山明日歌

奈良一艘

小野五郎

田中 薫

暮田 真名

笹田かなえ

### 宿題『混』

静岡県長泉町 米山明日歌選

#### 【佳作】

純血に大きじ1のかたくり粉  
 通勤車キュウリとナスは三両目  
 人混みの中で捉えた羅針盤  
 喝采は光だけだと思ふなよ  
 合歓ひらく光と風を抱きしめて  
 諦めはいつも混雑してしまふ  
 むらのないそらいろになつたらおわり  
 致死量の戯れ嘘でかき混ぜる  
 納豆グルグル見返りなんか求めない  
 チョコパフェに混じるボブ・マーリーの髭  
 ピーヒャララにホイップされちゃってパリピ  
 混ぜたつてワタシ必ず浮きますよ  
 気まぐれな夜の混沌とした薫り  
 満員電車拷問はまだ続きます  
 混混と色即是空 有為転変

兵頭全郎  
 森 茂俊  
 白川 莫  
 宮井いずみ  
 戎 踊兵  
 S i n  
 守田啓子  
 三浦蒼鬼  
 夏草ふぶき  
 月波与生  
 きさらぎ彼句吾  
 田中苑子  
 奈良一艘  
 芝岡かんえもん  
 高木まあこ

寝たぎりに混じり気のない磁気嵐

混ざるな危険マリンスノーとホシクズと

腰骨にパピコ混じっていませんか

混じり合う互いに背中向けながら

五百羅漢のひとつがぼくの生殖器

渦を巻く目眩混乱ペロペロ鉛

しょうがない昏迷の夜の鬼ヶ島

混合林ぬければ終の住処ある

七福人全部混ぜると妻になる

チャーハンの舞う角度からタンジェント

父方は宇宙人母方は人魚姫

革命はジョンとポールを混ぜなさい

鳥類の肩甲骨が混じる夜

乳房だけ無数に垂れた風景画

アとイが混じる交差点には雨が降る

【秀逸】

大阪弁混入とうふ真つ黄つ黄

ここを破るとワタシと雨が混じっちゃう

イカ墨を混ぜて中国雑技団

【特選】

白黒は無題の中で交尾する

小野五郎

ひらく

宇佐美慎一

宇佐美慎一

野沢省悟

高木まあこ

うつつわ

坂本清乃

栗橋邦雄

兵頭全郎

奈良一艘

月波与生

妹尾 凜

藤田めぐみ

辻井洋子

宮井いずみ

S i n

くんじろう

田久保亜蘭

### 宿題『混』

青森県弘前市 奈良一艘選

#### 【佳作】

通勤車キュウリとナスは三両目  
 放射能を大根足で混ぜるウツソー  
 混じり合う互いに背中向けながら  
 純血に大きじ1のかたくり粉  
 品種改良されて笹の葉になる  
 致死量の戯れ嘘でかき混ぜる  
 母親は白父親は黒子は刃物  
 ここを破るとワタシと雨が混じっちゃう  
 畳みじわつけたまんまで人込みへ  
 混ぜつかえて何かごめんってぞろり  
 混ぜたつてワタシ必ず浮きますよ  
 混ぜないで欲しい私はバラだから  
 マドラーの回転今日のお湯かげん  
 チョコパフェに混じるボブ・マーリーの髭  
 腰骨にパピコ混じっていませんか

森 茂俊  
 笹田隆志  
 宇佐美慎一  
 兵頭全郎  
 富士かれん  
 三浦蒼鬼  
 くんじろう  
 S i n  
 森田律子  
 熊谷冬鼓  
 田中苑子  
 田中苑子  
 辻井洋子  
 月波与生  
 宇佐美慎一

鳥類の肩甲骨が混じる夜

白黒は無題の中で交尾する

カリスマに逢える変声合唱団

浮子沈むすつと時空が混じり合う

イカ墨を混ぜて中国雑技団

大阪弁混入とうふ真つ黄つ黄

渦を巻く目眩混乱 ペロペロ鉛

乳房だけ無数に垂れた風景画

納豆グルグル見返りなんか求めない

混ざりつ気なしのダ・ビンチの血を吸う

五百羅漢のひとつがぼくの生殖器

花屋に花あふれ慕じまいのはなし

チャーハンの舞う角度からタンジェント

男子部に入れてくれたら生えてくる

朝礼の列に磯巾着がいた

【秀逸】

泣き顔のレプリカ紛れこむ夕陽

喝采は光だけだと思ふなよ

混沌の日暮れに白桃のうなじ

【特選】

むらのないそらいろになつたらおわり

妹尾 凜

田久保亜蘭

三浦蒼鬼

戎 踊兵

くんじろう

宮井いずみ

高木まあこ

藤田めぐみ

夏草ふぶき

田久保亜蘭

野沢省悟

矢沢和女

兵頭全郎

滋野さち

野沢省悟

一 帆

宮井いずみ

米山明日歌

守田啓子



特別選『星』

東京都 暮田真名選



【佳作】

土下座しなさい私の星を踏んだヒト

芝岡かんえもん

週末は迷って揺れて星になる

三浦蒼鬼

星の住処へトマトを植えに行つたまま

吉田州花

北斗星連れてお嫁に行くつもり

吉田州花

星らしくなつたらプロポーズするね

浪越靖政

どんぶらこポラリスになるまでどんぶらこ

守田啓子

かぎ針で一番星を引っかける

辻井洋子

極星の夜逃げを見たら電話して

兵頭全郎

チコちゃんと星占いのメカニズム

峯島 妙

頭蓋にプラネタリウム小屋がある

安藤なみ

前頭葉を北極星が食いちぎる

笹田隆志

キラキラの目さては星屑食べたでしょ

ひらく

腕のほくろは北斗七星落丁の

笹田かなえ

光れない星を時々拾う道

戎 踊兵

うたた寝の出口で拾う星三つ

三浦蒼鬼

一等星きつとあなたも持て余す

田中苑子

星詰めた隙間がたぶんあたしです

小沢 史

蚊柱か星雲なのか舐めてみる

きさらぎ彼句吾

同級生は準惑星にしておこう

兵頭全郎

彗星を飼う透明な箱で

妹尾 凜

無花果を割って迷子の星さがす

くんじろう

冥王星へ一泊したら戻ります

奈良一艘

ゾウガメの背中で星を観るツアー

森 茂俊

数え歌いるいるいるさ星の数

西城一始

あと一人来たらてんとうむしだまし

浪越靖政

助詞に羽はえて穴だらけの夜空

葉 閑女

星屑が溶ける札幌味噌ラーメン

伊藤良彦

彗星の尻尾に巻かれ締めラーメン

藤田めぐみ

歌舞伎座の裏で遊ばせる子星

森 茂俊

回りたい星もグローブジャングルも

宇佐美慎一

【秀逸】

星動くうちのめさされているうちに

斎藤泰子

夏の大三角ねじがあまってしまふなり

月波与生

糠床の星がなかなか漬からない

小沢 史

【特選】

光るのを拒めずにいる星の数

戎 踊兵

〈選評〉

『夜空にちらちらと輝いて、わたしたちの目を楽しませてくれるもの。遠くにあつて手に届かないもの。そんな「星」のイメージを意外な方向へずらしてくれる作品に惹かれました。特選、星は光りたくて光っているわけではないんだという気付き。秀逸1、地上に引きずり降ろされ糠まみれにされる星（かわいそ）。2、ハンドメイドの夏の大三角に、とぼけた口調がかわい。3、「星動く」の壮大なスケールのおもしろさ。』



## 川柳ステーション2024 暮田真名トークイベント

# 「川柳しか勝たん!!」

(聞き手: Sin)

川柳ステーション2024の特別ゲスト・暮田真名さんのトークイベント「川柳しか勝たん!!」のトーク内容のダイジェストをご覧ください。

\*

—今日は、暮田真名さんを特別ゲストでお呼びして、20代で東京出身の真名さんから見える現代川柳の景色というものを、トークの中から感じられればと思っています。まずは、青森の印象はどうですか？

**暮田** 青森県に昨日到着しまして、着いてすぐ「のつけ丼」を食べに行つて、2千円で、本当にすごいいっぱい海産物がのつけられて、夜もお寿司をご馳走していただいて、ずっと魚を食べているっていう感じです(笑)で、アップルパイも昨日1個食べて、今日も買って、明日も食べようと思います(笑)すごい美味しいです。あと、東京、今37度とかなんですよ。

なのでもう涼しくて本当に助かります(笑)

—聞くところによると、修学旅行で青森に来たことがあるとか？

**暮田** そうですね。中3の時の修学旅行が東北だったので、三内丸山遺跡に行つて、それ以来の青森です。

—早速ですが、真名さんは最初、短歌を始められたんですよね？その辺りの経緯をお話しいただければと思います。

**暮田** はい。短歌をやっていたのは、中学校の図書室にあった穂村弘さんの「世界音痴」というエッセイを読んだ、あ、歌人っていう人がこの世にはいるんだなと思って、そこから穂村さんの紹介する短歌とかを読んできました。で、早稲田大学に入って、早稲田大学の短歌サークルが盛んなので、入ってみたっていう感じです

ね。

—若い頃から短詩に興味があったんですね。

**暮田** 短歌は10代の時から読んでいて、俳句は大学に入ってからですけど、読んでました。

—その頃、川柳を目にする機会がありましたか？

**暮田** 川柳を目にする機会……。10代の時はサラリーマン川柳とかは知ってましたけど、本を出したりとかして人がいるとは思ってない状態でしたね。

—大学院までお進みになったんですよ？

**暮田** そうですね。学部生の時は哲学コースにいたんですけど、大学院で川柳の研究しますって言って入って。



で、指導教員に「川柳やるんだっから時実新子っていうビッグネームがまだ研究されてないからやってみれば」みたいな感じで勧められて4年がんばったんですが、結局論文は書けずに退学しました。

— 大学院で川柳を研究しようと思っただけは、大学生時代に川柳と出会ったっていいことですか？

**暮田** そうですね。出会ったのが大学2年生の時です。私が始める前に、短歌をやってる人たちが川柳を始めるっていう、ちょっとしたムーヴメントがあつて、瀬戸夏子さんとかが川柳スパイラルに出入りしてて、で、瀬戸夏子さんの選書フェアで小池正博さんの句集を読んで、そこから入っていった感じですね。

— 思ってた川柳のイメージと違いましたか？



**暮田** そうですね。なんなんだこれは。みたいな感じでした。

— 短歌をやりながら川柳と出会って、その道中はどういう風に変わったんですか？

**暮田** 短歌はサークルに入ったものの、すぐに作る方はそんなにやりたくないかもって思ってた。読むのは今でも好きですし、たまに作りますけど、川柳を始めてからはわりとすぐに主軸を川柳に移した感じですよ。

— なるほど。その「短歌を作るのは、そんなにやりたくない」っていう、その辺をもうちょっと深く聞きたいんですけど。

**暮田** 短歌は、自分のことを書かなきゃいけない感じだったり、心が綺麗な人がやってる感じが、私には合わないなと思えました。川柳のほうが書きやすかったです。

ら、暮田さんは川柳を書いてネットプリント発行しようよ」って誘ってもらって、それが「当たり前」っていうユニットなんですけど、ネットプリントで川柳を発表したりとかして、短歌の方から感想もらったりして。あと、川柳スパイラルの会員になったので、8句作ったりとかはしてましたね。

— そういう活動をしていく中で、川柳の一番大きい魅力って、なんでしたか？

**暮田** 川柳はとにかくこうしなきゃいけないみたいな決まりがなさそうなのところが良かったんですかね？(笑) それこそ結社とかに入ってたかもしれないんですけど、本当に野良でやってただけなので(笑)、好き勝手やっていいのかな、みたいな風に思ってます。

— 字数とかも関係ありますか？

**暮田** 確かに、31文字も書きたいことないな、とかも思いましたね(笑)

— じゃあ、最初から短歌を作り込んでたわけではなかったんですね？

**暮田** そうですね。読むのが好きだっただけで、作る方はやってなくて。サークルの歌会っていう活動があるんですけど、歌を持ち寄って、読み合っている。で、先輩とかが、下級生に対して指導的に振る舞うというか、それもあんまり好きじゃなくてっていう感じでした。

— で、川柳を書いてからは、どういう活動になっていくんですか？

**暮田** 川柳を書き始めて、短歌会にも一応顔出したりはしていたので、短歌会の先輩から、「私は短歌を書くか

— もともと縛られるのが好きじゃない？

**暮田** 勉強が嫌いなんですよね(笑) 学習して作品を良くしていくみたいなことにモチベーションがあまりないです。だから、がつり短歌をやっていた時期ってあんまりないですね。賞とかにも出してないですし。

— 短歌のアカデミックな部分が苦手？

**暮田** 勉強が好きなたちがやるものだという印象でした(笑)

— で、川柳を本格的に作り始めていったというところで、著書の「宇宙人のための川柳入門」にも色々書いてましたけども、作り方の件は意外に独特だなと思って読ませていただいたんですけど、単語の意味を知らない方が書きやすいと。あれ、ちよつとシヨッキングな感じでした。



**暮田** そうですね。全然詳しくない野球の言葉は好き勝手に使える一方で、好きで詳しいお笑いの言葉は実感があるので使えません。

—で、その本の中にもあるんですけども、意味性みたいなのは全く気になさってない感じですけど、この辺はどういう感じで書かれましたか？

**暮田** 入門書を出すからには作り方の章は必要だっということになったんですけど、私、本当に作り方を人に教えられなくて。でも、カルチャースクールとかお仕事をいただいて、作り方を皆さん知りたくていらっしゃるので、正直に自分の作ってる過程を順を追って説明したんですけど、この7文字はどっから出てきたんですか。とか言われても、私もわからないんです(笑)なので、入門書に書いてある作り方は、後からこじつけて書いた部分があつて。本当にあ

なぎやいけないので、どうしようもない部分もあると思うんですけど、特選にするしないという基準って単純に興味深いんですけど？

**暮田** そうですね、私が何度か選をさせていただいた時に、私が書いているような意味わかんない系の句を出していたこともあるんですけど、一概に意味がわかんなければいいわけでもないで、私とは違う気持ち的なところから句を書いているんだらうなっていうパターンでも、面白かったら取りますし、例えば、意味が分かる系の句だから敬遠するみたいなことはそんなにないですね。あまりにも時事的だったりすると、ちよつとどうかなと思ったりしますけど、完成度的なところで選んでるところはあります。

—あと、ポッドキャストでも色々なタになってますけど、短歌に比べて川柳には下ネタの作品が多いって



う話がありましたけど、その辺は、どう感じてますか？

**暮田** 短歌とか俳句に比べて異質だなと思いますね。なんでなんだろうと思うんですけど、でも短歌とか俳句とかは、パンツを履いていなぎやいけないみたいなことがあると思うんですけど、川柳はそういうのなかったのかなー、みたいな印象を受けました(笑)

—川柳も最低限、パンツは履いてなきやいけないんじゃないかと(笑)選してる時も下ネタの句は毛嫌いますよね？

**暮田** あ、そんなにないですね。まあ、私が選者やるってなった時点で、多分私があまりにも取らなそうな句とかは多分送られてきてない気がするのので、ストレスみたいなことはあんまりないです。

あいう作り方をしているかって言われると、微妙な感じです。

—じゃあ、作るときは、意味からは入らない？

**暮田** そうですね。使いたい単語が一応あつて、それをどう17文字にするかみたいなのをひたすら考える、みたいな。

—となると、真偽性の部分とか、ポッドキャストでも話題になってましたけども、全く考えない？

**暮田** なるべく本当のことは書かないようにしてます(笑)

### 作句と選者の整合性

—そうになると、川柳だと句会で選者をする機会が多くなってると思うんですけど、作句のポリシーとの整合性というか、有限なものから選ば

—では、選をして、どうでもわけわからなく作ればいっていうものじゃないものと、面白いものの境目って、真名さんの中でなんだと思いますか？

**暮田** 私でも、人の句を読んで「ただでたらめなこと書けばいいわけじゃないからな」と思うこともあります。なんていうか、なんでしようね、感覚的になつちやいますけど、読んで、こちらに刺さるものがあるかどうかみたいなのは割と直感的にわかるので、そんなに選をして、取れないみたいなこともそんなに無いです。

—じゃあ作句する時も、例えば、わからない野球の単語を使ったとしても、必ず自分の中の思いじゃないですけど、ちよつとしたエッセンスは入ってきちゃうっていう感じなんですか？

**暮田** もともと、単語萌えみたいな

ところがあるので、「全員野球」とか言葉としては好きなんですよね。なのでその言葉として好きだったという気持ちは入ってると思います(笑)

### これからの川柳

— 今、真名さんに影響されて、X(旧Twitter)上とかでも若い人が多く見受けられます。私の感覚では、いい川柳をとよりより、表現大喜利みたいな句が多くなってきているかなという印象です。今後、「知性ポット」の表現のような、A-1が川柳を作り始めるみたいな世界になった時、人間が作る川柳との境界線についてはどうお考えですか？

**暮田** うーん、そうですね、なんていうか、A-1的というか、五・七・五に単語を当てはめるみたいな川柳ってあるとは思いますが、外から見たら区別はつかなくなるのかもしれないですね。

**暮田** わかってほしいって思いますが、それは結局勉強したもん勝ちになっちゃってしまわないですか。教養を元に、この句のこの言葉を実はここから引用してきていてっていう句を作ったら、その引用元を知ってるかどうかだけでその句がわかるかどうかが決まってしまうっていうのがすごく嫌で、わかる人がいないのが一番平等だと思ってるんです。

— 絶対わからないようにしてやるっていうのではないですか？

**暮田** ちょっとわかりそうでも、句としての良さがあるなと思ったら出したりはしてまずいけど、わかるから良いっていうことはいらないと思います。

— やっぱ、作る方向性と選は全く違う感じになりますよね。

**暮田** そうですね、自分が作った訳じゃない句を選ぶことになるので。

— なので、さっき言った、どうでもでたために作ればいいんじゃないっていうところ、面白いていう、この間の部分が多く大事になってくるのかなっていう気がして。そこはなんなんだろうって思うんですけど。

**暮田** そうですね。「使われてる言葉同士の連絡」っていう言葉を、『ふりよの星』の批評会をやった時に平岡直子さんっていう歌人の方が言ってくれたんですけど、言葉同士が秘密裏に手を繋いでいるかどうかみたいなのが大事なんじゃないかなと思います。

— でもたまにそれが全く違う単語で成立するじゃないですか。その「連絡」っていうのは、読み手のスキルなのか、書き手のスキルなのか。

**暮田** 書き手のスキルも大きいと思

いますね。決してその読み手の解釈でどうにでもなるっていうよりは、書き手自身が作品を発表する時に、どうかなっていうのは考えなきゃいけないと思います。

— その辺も読まれるっていうことを前提に書いてます？

**暮田** そうですね。私の句は、わからないって言われるんですけど、私にもわからないかどうかをちゃんと確かめて発表しているというか。自分にとって意味がわかりすぎたりするものもそんなに良くないと思っていて、どこから見てもわからないようにちゃんとやってるかなっていうのは確認してます。

— 『どこから見てもわからないような確認』をするんですね(笑)この表現をわかってほしい、という欲はないんですか？

— でも、こうやって人が集まって投句して、選者が順位つけてみたいなのは、川柳ならではですよね。

**暮田** 句会は確かにやり方が違います。特殊な文化だなと思いますね。選評をクドクドやらないってというのが衝撃を受けた部分でしたね。サークルの活動でも、本当に一首について10分ぐらい喋ったりするんですよ。川柳だったらまず無いじゃないですか。1つの句について10分喋るっていうことは、そこが1番衝撃的でしたね。

— たまに喋ってほしいっていう時ないですか？なんでそれが特選なんですか、みたいな(笑)

**暮田** それも、選者の好みだしな、って川柳に入ってきてから思うようになりますね。好みの部分を聞いてみましょうがないって。





—でも短歌だつて好みで選んでいますよね？

**暮田** なんででしょう。短歌は根拠ありげにしていますよ(笑) 好みで選んだんじゃないみたいなの顔をしてますし。

—顔をしてるつてことは繕つてると。

**暮田** 根拠ある風に見せる技術が発達しすぎていて、あるかもつて思っちゃうんですよ(笑) 聞いてると。

—デイベート力なんでしょうね。

**暮田** 本当にデイベートなんですよね。俳句甲子園とか半分デイベートで決まるので、本当に俳句甲子園上がりの人とか、脅威のデイベート力みたいな感じで、それも馴染めなかつたですね(笑)

—というか、何があつたのかとか残してほしいと思います。

—残してほしい。歴史書みたいなものとして？

**暮田** そうですね。

### 柳壇の見取り図と歩き方

—ここまででは、私から色々テーマを振ってきましたけど、逆に真名さんから聞かれてたのは、「柳壇の見取り図と歩き方」でしたか。

**暮田** はい。

—「見取り図」つていのはどういう意味ですか？

**暮田** 「番傘」とかあるわけじゃないですか。そういう伝統的な川柳と、私がかやってるような川柳が、同じ柳壇に入ってるのかなみたいな。何がど

—あと、既存の結社にはあまり興味がないうちな話をお話をされてしまっただけ。

**暮田** ネットにあんまり情報が載つてなかつたりするじゃないですか。私は東京に今住んでるんですけど、東京にも川柳の結社があつて、東京川柳会つていう平川柳さんという方が主宰の川柳の会あるんですけど、その存在を知つたのが川柳を始めて6年くらいたつてからで。びっくりしちゃうんですよ。

—自分で結社を立ち上げる考えとかはないですか？

真名 結社：結社つて何をしたら結社なんですかね？(笑) 一応、川柳句会「こんとん」つていうのを1人でやってるんですけど、それも1人でやってるんですよ。月報「こんとん」つていうのを毎月ネットに発表してるんですけど、メンバーを1年

うなつてるのが全然わかつてないので。

—柳壇つていうのが難しくですね、詩的な川柳だけじゃないジャンルなので、見取り図と言われても、ものすごい広い感じなっちゃうんです。

**暮田** それこそZ賞をされていたわけじゃないですか。ああいう時つて、短歌とか俳句だと、いろんな派閥から1人ずつ選者がいて、その人たちが意見を闘わせるつていうのが、川柳で可能なのかな、とか。

—個人的な感想としては、多分ないと思います。大体その結社の代表を選者に、というスタンスの取り方をしてきただけで。

**暮田** Z賞もそうですか？

—Z賞は、おかしょうき川柳社の創設者である杉野十佐一さんの息子の

で入れ替えるんですよ。あんまり組織の人間関係みたいな得意じゃないから(笑) 大学にいた時もサークル作ろうかなつて一瞬思つたんですけど、嫌だなつて思つて、作らずに退学したんですけど。集団で何かやるつていうのはあまり得意じゃないかもしれないです。

—じゃあ、今後もタイミングで誰かと面白いことをやっていけたらいいというスタンスで？

**暮田** そうですね。

—川柳もとても高齢化で、将来性としてどうなのかなつていう瞬間が結構あるんですけど。真名さんに聞いたところなんですけど、どうしたらいいですかね？(笑)

**暮田** でも、お話を聞いておかないところはあると思いますね。どんどんわからなくなつていつてしまう

杉野草兵さんという方が一存で勝手に決めてました(笑) そういうパワーバランスも関係なく自分の頼みたい人に頼んでましたね。

**暮田** そうなりますよね。川柳で賞を考えると。何人かで話し合つたところで、みたいな感じはするかなつていう。新子の研究を途中までしてたわけなんですけど、その時はまだその川上三太郎とか生きていた時代なので、なんとなく柳壇っぽいのがあるのかなみたいな印象を受けたんですけど、そこから派生し、枝分かれして収集がつかない感じになつてくるのかなみたいな印象を受けたんで、

—どうなんでしょうね。なかなか壇つていうよりも、庶民のものみたいな、その敷居の低さがいい、みたいなところだつたと思うんですけど。あとは歩き方というのは？

**暮田** ポッドキャストをやっている、一緒にやっていると高良さんっていう短歌の方なんですけど、「柳壇を制覇したいとか思わないんですか？」みたいなことを言われて、思わないんですけど、私はこれからどうしていったらいいのかなって思って(笑)

—その辺が、先ほど聞いた結社とか作らないんですか？っていう質問と繋がるんですけど、同じような川柳思想を持つ仲間を作って発表していくっていうこととか。それよりも、句集出したりする方を優先してると感じますか？

**暮田** そうですね。でも、川柳を初めてから、こういう(文学性が高い)川柳があるみたいなことを、今知らない人に知ってもらおうみたいなことが活動の方針としてあって、『宇宙人のための川柳入門』を書いたので、逆にいま川柳をやっている人をどうこうっていうことにあまり関心がない

いかもしれないです。

—川柳を知らない人に伝わってる感じはありますか？

**暮田** 『宇宙人のためのせんりゅう入門』の感想を「LINE」で見たりとかすると、川柳は全然知らなかったけどみたいな人の感想とか目に入ってることがあるので、一応目的が達成できたのかなみたいな気はしています。

—これからも、それを手にして、川柳を始める人もいるんだろうなと期待しています。

—それでは、時間もそろそろなので、皆さんから質問ありませんか？

**野沢省悟** 句を作る時に、意味を考えない。そういう風な作り方はいいとして、作ることで、本にして発表することの感覚をちょっとお聞きしたいんですが。

私は誰がわからなくてもいいんだと、若い時に議論になったことがありました。わからない句でも発表するんだってことは、ものすごく大事なことでだと思っんですけども、それを真名さんがどういう意識であったかを聞きたかったんです。

**暮田** 意味が大事とあって川柳書いてる人と、普段交わることがないために、あんまりそういう問いをかけられたこともそんなに実はないんです。そこですでに派閥というか、川柳をどういうものと思ってるかが違うから、意味が大事みたいな人と話す時はどうしたらいいのかなと思います(笑)

—他に誰かいらっしやいますか。せっかくなので。

**月波与生** 先ほど見取り図の話もありましたけど、川柳を始めた時の起点が誰かかっていうのは非常に重要な

**暮田** 川柳の句集を出したりするのは、川柳を本の形で読める機会が短歌や俳句に比べて圧倒的に少ないなど最初に感じたので、川柳の本が増えたらいいなみたいなので、じゃあ自分の作品を本にするかみたいなところが最初にあつたと思います。で、自分で意味を考えずに作ったものを他の人が読んで、何かしら意味を与えてくれたりとか、こういうことを思ってたって言うってくれたりするのは面白いので、出してみてるっていう感じです。

**省悟** 昔、岸柳さんとちょっと議論をしたことあるんですけども。人に分からない句を作って、それを発表するってことは、どういうことだということを言われる。勝手に作るのはいいんですけども、それを発表するということとは、わかかってほしいからとか、そういう何かメッセージがあるから出すんじゃないかという、いや、

ことなんです。例えばそれが時実新子の人もいれば、石部明っていう人もいると思うんですけど、今、暮田真名自体も起点になってるんじゃないかなと思うんですけど、その時に自分がこの後どうしていいかっていう時に、例えば時実新子であれば、川柳大学を作って、全国に広がっていったということがあるんですけど、その辺の話があつたら聞かせていただければと思います。

**暮田** そうですね。時実新子のように川柳大学を起こして学長になるみたいなことにはそんなに熱心じゃないかもしれないですね。一応、今、私のロールモデルというか、こういう人になりたいなっていうのが穂村弘なんですけど、穂村弘は別に出版社の主筆とかではないんですけど、作品書いたり、エッセイ書いたりとかして、あと短歌初心者の作品を選んだりみたいなのをダビンチでやってたりとか、ああいう仕事はしたいなと





は思うんですけど、それが、自分の結社を起こしてついでというよりは、もうちょっとこう、出版ルートに乗りたいていう気持ちがあるので、既存の雑誌の一角をもらえたりとかする方がありがたいですかね。

—川柳で食っていければ一番いいんですよね(笑)

**暮田** あ、それはバイト辞めたいです(笑) お金がいっぱいもらえたらいいなと思いますね。

—川柳で食っていける人が1人現れたら、ゲームチェンジするんじゃないかなっていう風には思っていますので、頑張ってください(笑)

**くんじろう** ひとつお聞きしたいのが、これから川柳家としてのプロというものが生まれてくるのだろうか。純粹に例えば小説で食っているとか、美術で食っているとかいう形の川柳家と

ちの「らくだ」とか「水脈」とかご覧になって、難しいなあ、とかいう方と、難しくもない、これは面白いなあ、という方と分かれていくと思うんですけどね。伝統と革新なんていう境目、私に無いですけど、真名さんはどうでしょうか。

**暮田** 俳句とかの結社の長の人は、仕事辞めたみたいな話聞いたことありますけど、何か組織を起こして、その会員から会費を徴収するみたいな形ってというのは現実的ではないのかなと思う。原稿料生活者になるっていうことだと思うんですけど、川柳を書いてお金になるっていうことはまず無いと思うので、その川柳作品がお金に変わるっていうことは、私の書いてるようなものだと多分ないので、原稿の依頼をいただいたり、あと選の仕事をしてお金をいただいたりみたいなことを本当に何口も積み重ねていったら、いずれはそれで食えられるようになるかな、みたい



して育つていくんであろうかということと、もうひとつ、わかる川柳、わからない川柳の主語が抜けて、誰にやねんと。例えば小学生レベルの人に分

な感じですかね。

—わかる、わからないについてはどうですか？

**暮田** わかる、わからないについては、今、日本の人口の比率で20代って多分すごく少ないはずなんですよね。その20代の気持ちとかを書くだけで、80代の人には多分わからないものになってしまいうんじやないかみたいなところがあって、その最大公約数的な生き方というか、就職して家族を作つて子供を作つてみたいな、いわゆる一般的な生活っていうのがあったからサラ川とかは成り立ってたと思うんですけど、もう今って別にそういう時代でもない、みたいな感じがあるので、大多数に分かるみたいなものを目指したりは、私にはできないのでやってないっていう感じです。

—そろそろ時間になります。それで

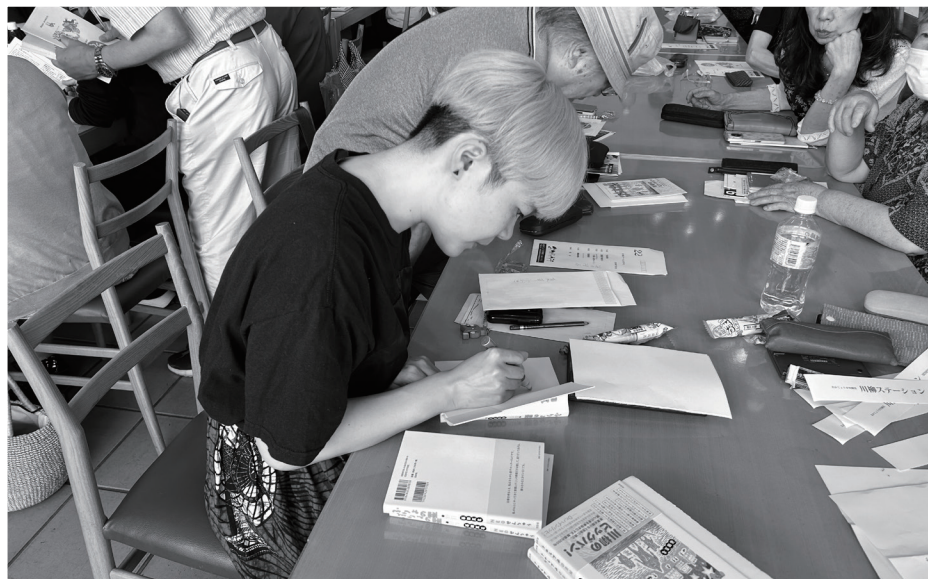
は最後に、真名さんが思う川柳の魅力をおっしゃっていただいて、だから「川柳しか勝たん!」と締めたいと思います。

**暮田** 川柳のどういうところに魅力を感じて私が書いているかっていうと、普段自分が使っている言葉っていうのは意味がぶれたりしてないというか、皆さんが思っている「意味」で、私が今喋ってるから言葉が伝わってるんだと思うんですけど、そういう、普段しなきゃいけない言葉の使い方から外れることができるっていうのが、私の思う川柳の魅力かなと思つてます。それ故に「川柳しか勝たん!」

—ありがとうございます。特別ゲスト、暮田真名さんでした!

(了)





真名さんのサイン入り句集「ふりよの星」が、特別選の賞品。



たくさんのご参加、ありがとうございました！

— 参加者募集 —

# 川柳吟行会「ぽ」

# 課題「草」

川柳を始めたばかりの私に北里深雪さんが「点钟」お散歩会の会報誌を数冊持って来て下さった。「作句に行き詰まったら吟行をするといいよ。実際に見ているから書けるよ。」と教えて下さった。前代表北野岸柳氏の自宅、佐々木旅館で例会をしていた頃のことである。あれから20年経った。

7月6日には「川柳ステーション2024」が開催された。その日は北野岸柳氏の一周忌だった。黙祷を捧げた。(守田啓子)

【8点】特×4

スギナたんぽぼクダミ孤立なんかしない 守田啓子

【州花】スギナもドクダミも嫌いではないけれど。【こあ

【8点】特×3・佳×2

走れメロス草かんむりはたすぎがけ 峯島 妙

【き】雑草は雑草どうし仲よくしましょ。【文音】草花を愛する人には厄介な草の仲間だと思うが、抜かれても踏まれても意気込みのある生き方に惹かれる。【隆志】スギナたんぽぼドクダミとならべて、孤独だけで孤立しないという心情がけなげ。

【彰子】このような作品の場合、説明的に成りがちだが、見事な飛躍で新たな調べに完成されている。【いずみ】草冠を擽がけにしてメロスを走らせるという発想に脱帽。【かなえ】メロスには草かんむりが良く似合う。句柄が太宰治っぽくて面白かった。【啓子】友情は継承される……ということか。バターライ効果か。気になった句。【隆志】友情と信頼の草かんむりの人です

【8点】特×2・佳×4

銀河まで続くサギ草の葬列

笹田隆志

【規子】葬列の先にメーテルと鉄郎が居そうな気がして惹かれた。【五郎】鮮明な心象風景。【いずみ】幻想的な景。サギ草が絶滅危惧種であることが脳裏をよぎる。【まあとこ】可憐で真つ白いサギ草が夜空に連なっているって素敵！【冬鼓】サギ草の葬列という美しい幻想。従っていきなり衝動に駆られる。【かなえ】サギ草は必然。繊細な花のありようが美しかった。

【7点】特×3・佳×1

ピノキオの鼻の長さよ道草よ

吉見恵子

【朱美】なるほど。道草が長いから、鼻が伸びたんですね。私も道草すれば、少しだけ鼻が高くなったかも。【啓子】「センセーにお手伝いしてきたの」なんて言ってしまったことなど思い出しました。【踊兵】ピノキオに成れそうな子はもういない【隆志】道草の鼻先はとんがっていますから。

【4点】特×2

銀行の更地ギシギシが生えてきた

小野五郎

もあるのですね。ドヤ顔の作者。【文音】ツープロックが髪型だと知りました。詰草のイメージが広がりました。

【3点】特×1・佳×1

タンポポぞ西と東の殴り合い

岩根彰子

【吉見恵子】たんぽぽの飛翔で、ロシア対ウクライナ・ヨーロッパなどの今の戦争の構図を表現していて上手い。【冬鼓】戦争は所詮陣地の奪い合い。たんぽぽに告発させている。

恋ですかホタルブクロになりました 小野善江

【妙】ホタルブクロの可憐さに恋はピッタリです。もう一度こんな仕草をしてみたいものです。【五郎】哀愁漂う作り方。

水草のきのうと今日が混じる水 小野善江

【与生】水草の揺らぎを昨日と今日を漂う水と例えるなんてなんと深い表現だろう。「揺れる」とやら「混じる」としたのも川柳らしい。【踊兵】水、水草、泳ぐメダカ。昨日と同じ姿は無いのですね。

【冬鼓】銀行の支店が次々閉鎖される昨今。跡地には嫌われ雑草のギシギシ。キャッシュレスで対話の減った人間関係のギスギス感とも通じる。【さち】池井戸潤原作のドラマを思い出した。いかにもギシギシがびつたりの銀行の更地。納得。

【4点】特×1・佳×2

のんびりと行くさチガヤを渡る風 宮井いずみ

【ふぶき】野原一面に広がるチガヤが目につかび、のどかな風景の中をさやさやと吹く風が自分だとした心が解放されたようないい気分になれると思った。【与生】やつかいなチガヤをこんなに爽やかに詠めるなんて。「のんびり」はチガヤからは遠い気がするがギリギリセーフか。【妙】チガヤに自分を重ねて清々しい。こんな心境になりたい。

【4点】佳×4

詰草をツープロックにしてやった 小野五郎

【与生】野原一面に咲く白詰草をツープロックにしてやるとは爽快でよい。【まあとこ】「…してやった」に楽しんでいる笑顔が見えます。【啓子】草刈りのこんな楽しみ方

【3点】佳×3

さみしがつてる場合じゃないよ草伸びる 城後朱美

【こあき】そうそう。さみしがつてる暇はないのです。【五郎】群を抜くユーモアとアイロニー。【さち】毎日実感しています。つい笑っちゃうくらい。

【2点】特×1

いつの日かマダム草笛光子的 峯島 妙

【善江】高齢者の星「草笛光子」が頑張っています。年を重ねても憧れられる存在を目指すことがこれからのステータスのひとつでしょうか。

悩まないわけではないがカラスムギ 宮井いずみ

【柳本恵子】食用にならないけど、カラスムギの生き方がしたいです

ツメクサを挟んで返すヴェルレーヌ 滋野さち

【まあとこ】ツメクサの押し花を挟んで パタンと閉じたヴェルレーヌの詩集が目につかび 作者の読後感まで伝わってくるようです。



しおらしく はこべのように強かに 吉田州花

【吉見恵子】この戦術には敵いませんね。しおらしい女は強いのです。【柳本恵子】はこべのようにいききたいなあ

露草の世間知らずの青ひかる 吉見恵子

【州花】つゆくさの青のみずみずしさは世間知らずだったんだ。【踊兵】あの青を自分も匂にしたいと思っていました。

ジエンダーアイデンティイ草いきれ 月波与生

【吉見恵子】次から次へと横文字が多くてついて行けません。「草いきれ」は、ため息のようであり息切れのようです。【善江】「ジエンダーアイデンティイ」に「草いきれ」はピッタリです。

草色の言葉でこころ綴つてよ 高木まあとこ

【彰子】パレットから選ぶ言葉は草色。説得された。【規子】この歳になると匂に使う言葉の新鮮な草色を保つのが難しい

露草がじゃまになつたり愛しくなつたり 渡邊こあき

【朱美】草取りをしたらさみしくなつた。露草は母。【彰子】同感、人生を感じた。露草が起立している。

こぼれ種だつた路肩の白い花 滋野さち

【柳本恵子】どこでも生きて行ける強さです。【こあき】思いがけないときに思いがけないところにきれいな花が咲く。

モチたくてベジタリアンになつた獅子 夏草ふぶき

【妙】逆効果でしょうね、残念ですけど。【規子】氣迫に満ちて凜としているばかりでなく中にはベジタリアンの獅子がいてもいい。

月見草のうそを信じたばつかりに 熊谷冬鼓

【朱美】後悔してる。でも、自分で決めたことだから。【善江】「月見草」は儂げで、ある種、嘘っぽい花です。

※一点句は割愛します。

# 十和田たてがみ川柳会六月句会

○日時 6月22日(土)

○会場 十和田労働福祉会館

○参加者 木村奈生美・久保あざみ・白山修治・

瀧尻善英・福田芳記・村上昌子・高田幸柳

○投句者 磯島雅男・佐藤まさあき・斉藤蛙井・城後朱美

■席題『餅』 木村奈生美 選

【平抜き】

風物詩 家族総出で白と杵

白山 修治

つくよりもこねるに力うまい餅

福田 芳記

餅つきの掛け声寒き吹き飛ばす

高田 幸柳

ねばり勝つ完治は遠い尻餅だ

村上 昌子

絵に描いた餅より今日の第一歩

瀧尻 善英

昭和には家族総出の餅をつく

久保あざみ

【秀逸】

神様に祈りが届く かがみ餅

瀧尻 善英

落語言う早く食わねば餅かびる

福田 芳記

【特選】

餅を出し機嫌とれる娘一人居る

村上 昌子

■席題『餅』

瀧尻 善英 選

【平抜き】

餅つけば正月が来た懐かしく

白山 修治

ばあちゃんの草餅学ぶ生きる知恵

木村奈生美

昭和には家族総出の餅をつく

久保あざみ

風物詩 家族総出で白と杵

白山 修治

ねばり勝つ完治は遠い尻餅だ

村上 昌子

あとひとつ餅が焼けたら話します

高田 幸柳

【秀逸】

年とると餅が小さく切つてある

久保あざみ

餅つきの掛け声寒き吹き飛ばす

高田 幸柳

【特選】

大福が好きで気になる血糖値

木村奈生美

■宿題『モデル』

村上 昌子 選

【平抜き】

学びたい人生のモデル親父の背

斉藤 蛙井

母さんがモデルでしたと嫁が来る  
美しきモデルのような箸捌き

瀧尻 善英  
磯島 雅男

何時までもモデルでいたいキュボンボン  
初恋は勝手にモデル美化してた

磯島 雅男  
齊藤 蛙井

遊戯会モデルの顔になる園児  
国会無視閣議決定悪モデル

木村奈生美  
福田 芳記

広告のモデルの服が入らない  
自分史にマドンナモデル一人いた

久保あざみ  
齊藤 蛙井

将来はモデルか女優と七光り  
世が世ならスーパードモデルだったかも

高田 幸柳  
城後 朱美

お気に入りモデルチェンジに追いつけず  
【秀逸】

高田 幸柳

新車よりモデルに視線 展示会  
新調のドレスおませなポーズとり

佐藤まさあき  
高田 幸柳

【特選】  
プラモデル手付かずのままパパになり

久保あざみ

【宿題】『もやもや』

瀧尻 善英 選

【平抜き】  
濡かかる頭のままで出る句会

村上 昌子

■宿題 『物足りなく』

互選

①膳に物足りない薄味がある

磯島 雅男

①晩酌に好物一品見当たらず

佐藤まさあき

①期待した結果得られず我が身責め

白山 修治

①少子化へひとり足りない縄電車

瀧尻 善英

①不合理な法案数で押し通す

高田 幸柳

①夕食の手作り一品物足りず

久保あざみ

②物価高ものたりなさが籠の中

齊藤 蛙井

②大相撲 横に変化のあつけな

福田 芳記

④繰り返す答弁どうも腑に落ちぬ

村上 昌子

◆十和田たてがみ川柳会八月句会案内◆

【時】 8月17日(土) 午前10時から 【所】 十和田労働

福祉会館 【宿題】(各題三句詠)『止(や)める』高田

幸柳選/『やせし』木村奈生美選 【互選】(一句詠)

『やぶ蛇』当日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入)

【席題】『当日発表』(三句詠・共選) 選者は、瀧尻善英

ほか出席者から一名 【投句先】〒034-0212 十和田市

米田字桜平72 高田幸柳宛

つばやきは意味が不明と気が揉める  
もやもやが暗れて静かな風になる  
若いころもやもやしてた頃が有り  
もやもやがすすきり晴れてる便座  
「バカヤロー」叫びもやもや晴らしてる  
もやもやが微笑みながら会いにきた  
もやもやとしたり甘味が欲しくなる  
もやもやは還暦になり強くなる  
仲直りもやもや消えた蒼い空  
もやもやの政治に民の活を入れ  
このままじゃ機密費十億ずつと聞  
悩み吐露胸のもやもや晴れました  
思い切り吐き出して消すわだかまり

白山 修治  
高田 幸柳  
久保あざみ  
磯島 雅男  
佐藤まさあき  
村上 昌子  
城後 朱美  
久保あざみ  
磯島 雅男  
高田 幸柳  
福田 芳記  
佐藤まさあき  
木村奈生美

【秀逸】

もやもやをドキドキにする処方箋  
もやもやが三日も続く恋かしら

高田 幸柳  
城後 朱美

【特選】  
黒い霧なかなか晴れぬ永田町

村上 昌子

## おかじょうき川柳社ウェブサイトからの投句について

現在、おかじょうき川柳社のウェブサイトは、サーバー移転のため、一部サービスが使用できない状況となっております。

みなさんがよく使用する「投句ページ」もすべて Google フォームへ移行して対応しています。

ただ、投句された方から、「画像認証がうまくいなくて投句できない」という声が多く寄せられています。これは、ロボットによる大量投稿を防ぐためのセキュリティとして行われています。

画像認証が出てくる人と出ない人がいますので、下記の方法をいくつか試してください。

### ①「Google Chrome」でウェブサイトを開覧する。

Android のスマホだと標準で「Google Chrome」となっているのですが、iPhone は標準が「Safari」になっているため、画像認証が出てくるようです。**iPhone の方は、右の QR コードから「Google Chrome」をインストール**してみてください。



### ② Google アカウントを作成する

iPhone の「Safari」を使用していても、**Google アカウントを作成してログイン**すれば、画像認証は出てこなくなります。Google アカウントを作成しておけば、いろいろなサービスがありますので、作ってみてはいかがでしょうか。



### ③画像認証を突破する

画像認証は右の例でいうと、9つのタイルから自動車が映り込んでいるものを**すべて選択**します。なかには、ギリギリに映り込んでいるものもありますので、注意が必要です。

ただ、**間違えても全然大丈夫**なので、それらしいものを選択して「確認」を何度か押してみれば突破できるはずですよ。



わかりにくい問題だった場合、ここで問題を変えれます

## □ 2024.08.11 第 78 回青森県川柳大会

【日時】8月11日(日)午前10時から【会場】リンクステーションホール青森【会費】3千円(昼食代含む)、高校生以下無料(昼食付き)【特別選】「骨」(1人2句)吉崎柳歩選【宿題(各題1人2句)】「弱り目に祟(たた)り目」熊谷冬鼓・濱山哲也共選「穏やか」三浦蒼鬼・千鳥鉄男共選「身勝手」むさし・野沢省悟共選「人形」瀧尻善英・田沢恒坊共選【投稿】作品は全て未発表に限る。応募用紙は6月12日正午から、同文化財団ホームページ (<http://www.toonippo.co.jp/feature/z-bunka>) からダウンロードできます。または、はがき大の紙5枚を使用し、それぞれの用紙の右上に特別選、宿題と朱書きした上で、各題2句ずつ必ず楷書で書いてください。新旧仮名遣いは問いません。いずれか1枚の裏面に郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、生年月日、電話番号を明記(学生の場合は学校名、学年も)。大会会費(郵便小為替)を同封し、「〒030-0801 青森市新町2の2の11 東奥日報新町ビル2階 東奥日報文化財団「県川柳大会係」宛」に送ってください。問い合わせは同文化財団(電話017-718-5115 平日午前9時~午後5時)へ【締め切り】7月10日(水)当日消印有効。直接持参する場合は午前9時~午後5時に東奥日報新町ビル2階へ(土日祝も可)【席題】当日2題を出題(各題1人2句)。選者は2題のうち一方が福土慕情、田鎖晴天の2氏、もう一方が沢田百合子、高瀬霜石の2氏による共同選。【賞】当日の出席者を対象に採点し、総合1位に県知事賞、2位に県議会議長賞、3位に県教育長賞、ほか20位までの上位入賞者に賞品を贈ります。優秀作品は東奥日報紙上と東奥日報文化財団ホームページに掲載します。※懇親会はありません。【主催】東奥日報社 東奥日報文化財団【後援】青森県・青森県議会・青森県教育委員会

## □ 2024.08.20 川柳さっぽろ 800 号記念全国誌上大会

【課題と選者(各題2句・未発表句に限る)】「じゃがいも」真島久美子選(佐賀県)「熊」平井美智子選(大阪府)「めんこい(かわいい)」高橋みつちよ選(釧路市)「ポプラ」伊藤寿子(帯広市)「蟹」岡崎守(札幌市)【投句締切】令和6年8月20日(火)消印有効【投句用紙】指定の用紙をご使用ください(コピー可)【投句料】1,000円(定額小為替または現金、切手は不可)【発表】川柳さっぽろ11月号に掲載(応募者全員に柳誌贈呈)【賞】題ごとに特選賞、札幌川柳社賞(賞品は北海道銘菓等)【投句先】〒069-0821 江別市東野幌町46-10 嶋口幸美方/川柳さっぽろ800号記念全国誌上大会事務局宛 電話・FAX 011-383-5556【問い合わせ先】投句先まで【主催】川柳さっぽろ800号記念全国誌上大会実行委員会 実行委員長 佐藤芳行



■会費拝受【6月受付分】 ※太字は新会員

奥田悦生 (三重県) / 宮井いずみ (大阪府) / 郷田みや (愛媛県) / 越田清四郎 (東京都) / 夏草ふぶき (青森市) / 須藤しんのすけ・奈良一艘・斎藤早苗 (以上弘前市) / 高田幸柳 (和田市) / 三浦蒼鬼 (黒石市) / 工藤比呂美 (外ヶ浜町)

■おかじょうき川柳社会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかじょうき川柳社

→会費：6,000円（1年分）

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

(〒039-3502 青森市久栗坂字浜田 87-2)

--- 終着駅 Sin ---

◆今年の川柳ステーション 2024 は、遠方からたくさんの方が参加してくれて、とても内容の濃い楽しい時間でした。参加していただいた方、全員に感謝、感謝です！◆今年の特別ゲスト・暮田真名さんも本当にありがとうございました。事前に2回くらいリモートで打ち合わせさせていただきましたが、実際お会いしてみると、東京生まれの子だっという印象でした（笑）真名さんが金曜日に到着して、そのまま一人で青森県立美術館に向かうとのことで、夜に打ち合わせを兼ねた会食もあったので、美術館で出てくるところを捨てあげようと思い、美術館に着いたものの、駐車場の入り口が封鎖されていて、私も（あれ？）という違和感が…。すると、真名さんから「美術館お休みでした」とLINEが送られてきて、（金曜日に休館？）と思いながら、美術館の玄関先を見渡すと、遠くに金髪で赤いスカー

トの女の子が歩いているのが目に入り、思わず「わかりやすっ！」って声が出るくらい目立ってた姿が印象的でした（笑）ちなみに、美術館は作品入れ替えのために、その日まで閉館だったらしく、ステーション当日の午前中に無事、美術館を堪能できたとか◆トークイベントでは、10年以上前から私が懸念しているAI川柳と人間が作る川柳との境界線についても、聞くことはできた。真名さんは、「見た目にはわからないかも」としつつも、「言葉同士が秘密裏に手を繋いでいるかどうかみたいなのが大事」と答えてくれた。これは、昔から同じような事は言われてきたことだが、若い世代の「言葉の連絡手段」が違うのだろう。さしずめ、郵便、FAX、メール、LINEのように、世代間でその言葉同士の連絡手段の距離感や速度感が違うのだろう。そして私はどれなんだろう。ポケベル？ www ◆Sin

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2024.08.14 ㄨ 「川柳吟行会 ぼ」 8月句会

【投句締切】8月14日（第2水曜日）【題・投句数】[『本』2句【合評句会】8月21日（第3水曜日）青森駅前アウガ5階で14:00～【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 \*

それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかじょうきに掲載。メール交換できる方であれば、おかじょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。【メールでの投句】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛



□ 2024.8.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句 (10月号分)

【締切】8月20日必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句（最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入）【掲載】10/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moriko@okajoki.com

守田啓子宛



□ 2024.09.03 おかじょうき川柳社本社 9月句会

【時】9月7日（土）午後1時～【所】アウガ5階小会議室【投句締切】9月6日（金）15時【宿題】（各題3句詠）『サイズ』/『痛』/『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句『ラーメン』1句【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛



□ 2024.09.11 ㄨ 「川柳吟行会 ぼ」 9月句会

【投句締切】9月11日（第2水曜日）【題・投句数】[語]2句【合評句会】9月18日（第3水曜日）青森駅前アウガ5階で14:00～【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 \*

それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかじょうきに掲載。メール交換できる方であれば、おかじょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。【メールでの投句】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛





2024年8月10日発行(年12回発行) 第29巻8号通巻365号  
 ●発行人/むさし●編集/Sin●発行/おかじょうき川柳社●表紙題字/金子榮風  
 青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐干43-3 ●E-Mail:info@okajoki.com

# 第29回 杉野十佐一賞 作品募集

課題/締切

「紙」(2句詠) / 2024.9.30 ✕

選者

徳永 政二 (滋賀県/「びわこ番傘川柳会」所属)

なかはら れいこ (岐阜県/「ねじまき句会」所属)

樋口 由紀子 (兵庫県/「晴」編集発行人)

広瀬 ちえみ (宮城県/「What's」編集発行人)

峯 裕見子 (滋賀県/第28回杉野十佐一賞大賞受賞者)

むさし (青森県/おかじょうき川柳社 代表)

投句料

1,000円 (発表誌をもって投句料領収したものとさせていただきます/締切日まで投句料が入金された場合のみ作品を受け付けます)

応募方法 ※郵送・FAX での応募は受け付けておりません。

【ウェブサイトからの応募】

<https://forms.gle/iAX2fZRBvFG37iyc8> へアクセスし、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。送信後、締め切り日までに下記口座に投句料1,000円をお振り込みください。



スマホで簡単申し込み!

【メールで直接送信する場合】

メール本文内に「作品(2句まで)」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号(ふりがな)」「電話番号」を明記し、件名に「第29回杉野十佐一賞」として、下記送信先までメール送信してください。

<送信先アドレス(守田啓子宛): moriko@okajoki.com >  
 送信後、下記口座に投句料1,000円をお振込みください。

振込先: 郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

発表

月刊おかじょうき 2025年1月号の誌上において発表。

サイト掲載: 2025年1月中旬

賞

上位入賞者に青森県特産品を贈呈。

諸権利について

著作権は作者に帰属しますが、出版権、雑誌掲載権など、作品を自由に利用できる権利は、おかじょうき川柳社に帰属します。

その他注意事項

※作品は応募者の自作で未発表のものに限ります。※応募された原稿に関するお問い合わせや、審査結果の問い合わせには応じられません。※個人情報については、許可なく他の目的で使用することはありません。